

(様式例 2)

平成 22 年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立大垣工業高等学校

学校番号 27

自己評価

1 学校教育目標	誠実にして心豊かな人間性と強くたくましい身体の上に、すぐれた知識と技術を兼ね備え創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。 このことを実現するために本年度は以下の重点目標を設定した。 (1) 社会で通用する確かな力を身に付けさせる。 (2) ルールやマナーを自ら守り、社会的規範を大切にさせる。 (3) 自ら健康と安全を管理できる生徒を育てる。		
2 評価する領域・分野	学習指導		
3 現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「学校は子どもが意欲的に取り組むように授業の工夫をしている」という問いに対して 84 パーセント「あてはまる」という保護者の回答を得た。生徒も「わかりやすく説明されている」と回答したものが 84 パーセントとなっているので、授業改善が少しずつ進んでいると思われる。 ・「テストの得点だけでなくいろいろな面から学習の評価を行っている。」ことにも保護者・生徒共に「あてはまる」と回答している。ノートや授業姿勢を適切に評価していることが伝わっている。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	生徒の学習習慣の確立を図り、平常の実践を通して授業改善と生徒への支援の充実を行う。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学習指導係を中心とした教員・生徒双方への支援 ・学科・学年を主とした担任へのバックアップ		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 公開授業 week の設定と授業改善 (2) 基礎学力タイム(朝学習)の実施 (3) 考查前特別学習会の設定	(1) 授業アンケート(教員・生徒) (2) 参加率と小テスト・課題テスト結果 (3) 参加率と成績不良科目の減少数		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・生徒の学習習慣の確立を図り、平常の実践を通して授業改善と生徒への支援の充実を行う。 ・基礎学力タイム(朝学習)を実施し、教室における学習の雰囲気作りと基礎学力の向上を図る。 ・遅れがちな生徒を支援し、全単位修得を目指す。	教員・生徒双方の授業評価・個人内評価が高まったか。 教室の授業姿勢の改善がつながり、小テストが向上したか。 考查前の生徒のやる気が高まり、成績不良科目が減少したか。	A (B) C D A (B) C D A B (C) D	
11 成果・課題	教員同士がお互いの授業を見る中で授業改善のヒントを見つけて実践できた。生徒も自分たちの授業を見られる緊張感がよい刺激となった。 金曜日の朝は「基礎学力タイム」ということが定着しはじめ、クラスによっては生徒同士で点数を競いあう様子も見られた。 担任の指導に温度差があり、落ち着きのないクラスも見られた。 成績不良科目をたくさん抱えている生徒(特に3年生)は学習習慣が身に付いておらず、やる気不足も手伝って、学習会に参加しない生徒もいた。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 本校生は実習や資格取得には熱心であるが、全体的に学習する習慣が身に付いておらず、教員もそのところをコントロールできていない。不況によって就職が厳しくなっている中、基礎学力の充実がますます求められているので、来年度も本年度の試みを継続し、さらなる発展を目指したい。			